

令和6年度 学校評価（共通項目）評価書

和光市立 大和中 学校

柱	N.º	評価項目	自己評価	自己評価の説明 及び学校の考え	関係者 評価	学校関係者評価の説明
学校の組織運営	1	学校は、学校教育目標達成に向けて 全教職員で組織的に取り組んでいる。	B	学校教育目標を意識した学年運営がなされ、生徒もよく意識している。生徒の主体性を伸ばす取組の工夫に課題があり、全職員で取り組む。	A	学校長を中心に全教職員で、学校教育目標を大切にした学校運営・学校経営がなされている。
	2	学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。	B	生徒に様々な想定での訓練を実施した。教職員の意識や判断力を高める研修や訓練を要する。	A	あいさつ運動等で先生方・保護者・地域の人が協力して見守りができている。
基礎学力の定着	3	児童生徒は、教職員の指導により、基礎学力を身に付けている。	B	学級における心理的安全性を高めるための学級会を多く実施した。各教科の授業に還元していく。	B	若い教員の指導力向上のための研修を充実させていくことが必要である。
	4	学校は、学力向上を目指し、児童生徒の実態に基づいて授業改善に努めている。	B	教師が教える授業から生徒が主体的に考える授業への工夫した実践、さらなる授業転換を要する。	A	学校運営協議会の報告や授業を視察して、教職員は最善を尽くしていると感じている。
	5	学校は、学習ルールを共通理解するなど、学習規律の確立が図られている。	B	年度当初および定例の部会や学年会を通して、全職員による共通理解、共通行動の徹底を図る。	A	子供たちが前向きに取り組む授業改善が学級活動を通じてなされていると感じている。
規律ある態度育成	6	児童生徒は、生活のルールに基づき、発達段階に応じた規律ある態度を身につけている。	B	課題がある生徒や配慮を要する生徒へ、自己肯定感を高めるため、スモールステップで中・長期的な計画を策定し、組織的に対応していく。	A	挨拶運動時等、先生方、保護者、地域の人が協力をして、見守りもできていると思う。
	7	学校は児童生徒の実態把握に基づき、規律ある指導の工夫・改善に努めている。	B	生徒間および教師との、より良い人間関係を構築する中で、規律を重んじることと社会の変化にも柔軟に対応した指導を要すると考える。	A	校長を中心に教職員の皆様が、学校経営・学校運営をされていることが伝わる。
健康・体力向上	8	児童生徒は、体育の授業や運動部活動、外遊び等の運動に意欲的に取り組んでいる。	B	体育授業を中心に全生徒へ運動の動機づけを図る取組を推進している。校外クラブに参加する生徒も増えているが、学校部活動を受け皿としての役割も担っていると捉え今後も取り組んでいく。	B	意欲的に取り組む様子は見られるが、小学校に比べると活動場面の目の当たりにする機会が少ない。
	9	学校は、児童生徒の体力を高めるため、意図的に向上策を講じている。	B	部活動時間の見直しは活動の質を高め生徒の体力向上の機会となるよう指導者の創意工夫が求められ、教職員が更に取り組めるようにする必要がある。	B	生徒数が多い中、先生方はよく取り組んでいらっしゃると感じる。
連携	10	学校は、保護者や地域と連携し、その教育力を学校運営や教育活動に生かしている。	B	学校運営協議会やPTAの協力を得て、開かれた学校を目指し、連携を深め、学校教育活動に地域の力を生かした取組を創造する。	A	地域との連携は取れていると思う。

注：「自己評価」及び「関係者評価」の欄はA～Dで記入